

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社筑波銀行（証券コード:8338）

【見直し変更】

長期発行体格付
格付の見直し

BBB+
ネガティブ → 安定的

■格付事由

- (1) 茨城県土浦市に本店を置く資金量約2.3兆円の地方銀行で、10年3月に旧関東つくば銀行と旧茨城銀行の合併により誕生した。合併以降に事業基盤の強化が進んでいる点を評価している。JCRでは、コア業務純益（投信解約損益などを除く、以下同じ）の動向に注目してきたが、21/3期に大きく回復しており、また、当面も堅調に推移していくとみている。2021年10月1日に業種別格付方法「銀行等」を見直したことに基づき、従来は資本性を限定的とみていた当行が発行する公的優先株について、資本性を高いものと評価することとした。これらを踏まえ、格付の見直しを「安定的」へ変更した。
- (2) 21/3期のコア業務純益は28億円と、20/3期の10億円からは大幅な増益となったが、ROA（コア業務純益ベース）は0.1%超と低く改善の余地は残る。もっとも、22/3期第1四半期のコア業務純益は11億円、前年同期比約3倍と足元の業績も好調である。店舗ネットワークの見直しを進めることなどで人員が減少し、経費を削減できており、当面もコア業務純益を下支えしていくとJCRはみている。また、フィービジネスの増強に取り組んでおり、役務取引等利益の増加に結び付いた。とりわけ、顧客ニーズを捉えた貸出の組成などに本格的に取り組んだことで、法人向けフィー収入が増加した。有価証券運用では、投資信託の残高を積み増すなどポートフォリオの見直しを進め、収益性の改善を図っている。
- (3) 与信費用は、19/3期以降10億円台の半ばから後半で推移している。与信費用発生の主因は小口先にかかるもの。その他要注意先以下の与信先の中に、コア業務純益対比でみて未保全額が大きい先が散見され、コロナ禍での与信費用の動向について引き続き注視していく必要である。ただし、コア業務純益が堅調に推移していくとJCRはみており、与信費用を吸収可能と考える。保有する有価証券にかかる価格変動のリスク量は資本対比でみて小さくない。また、その他有価証券の評価差額は20年3月をボトムに改善しているものの、含み益が有価証券の残高に対して低水準である点に留意を要する。
- (4) 貸倒引当金などを調整後の連結コア資本比率は21年3月末で8%台後半と、格付対比でみて良好な水準にある。一方、有価証券残高の増加などによりリスクアセットが増加に転じる可能性がある。また、今後、公的優先株の実質的な返済期限が近付くにつれ、認定する資本性を逡減させるため、調整後のコア資本比率には下押し圧力が掛かる。もっとも、堅調なコア業務純益などを背景に内部留保の蓄積が進み、当面格付に見合うコア資本比率を維持可能とJCRはみている。

（担当）加藤 厚・大石 剛

■格付対象

発行体：株式会社筑波銀行

【見直し変更】

対象	格付	見直し
長期発行体格付	BBB+	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2021年10月12日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：加藤 厚
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2021年10月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社筑波銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル